

学校運営協議会（全日制部会）議事録

校名	府立 春日丘高等 学校
校長名	濱崎 年久

開催日時	令和 5 年 7 月 7 日（木） 14:00 ～ 15:45
開催場所	大阪府立春日丘高等学校 本館 1 階 校長室
出席者(委員)	伊藤委員、伊藤委員、笠原委員、川中委員 藤委員
出席者(学校)	濱崎校長、藤澤教頭、野田事務部長、大岡首席、山田首席、田村教諭
傍聴者	なし
協議資料	学校運営協議会実施要項、R 5 学校経営計画、進路状況
備考	

議題等(次第順)
学校運営協議会について、（年度初めにおける）位置づけの確認 協議会会長の選出 協議開始 ①今春の大学入試結果（75期生進路実績）の説明、講評 ②今年度のここまでの経過説明 ③令和 5 年度学校経営計画の説明
協議内容・承認事項等（意見の概要）
○運営協議会委員の発言 ●本校教職員の発言 ①について ○（前年度より浪人生が増えたことに対して）浪人生が増えることをネガティブに捉える人もいるが、私は浪人生が増えるのは良い傾向とみている。それは志望校を最後まで諦めずに頑張る人が増えたということ。 ●この学年は入学直後の 4 ・ 5 月が休校となった学年。その 2 カ月が尾を引いており、理系科目は試験範囲がなかなか終わらなかったことも一因としてあるのでは。 ○浪人生への指導はどのようにしているのか。 ●基本的に既卒生は自分で頑張ることになるが、既卒生がどうしているか駿台・河合からも情報をもらっている。 ●宅浪をして大学をめざす者もいるが、最近は仮面浪人も増えている。 ○大学にいる者からすると、仮面浪人はお勧めしない。結局は、どちらも中途半端になって留年することが多い。それくらいであれば、予備校に通った方が力がつく。
②について ○月曜日の全校一斉退庁日について先生方の反発はないのか。 ●昨年度から導入に向けて話をしていた。一斉退庁をするためには、その日の部活を休みにしてもらうか、活動をして 5 時までには終わる必要がある。本校は部活動が熱心な学校なので、クラブへの影響が少ない月曜日を一斉退庁日をに定した。ただ、体育館や運動場は各クラブでローテーションをして施設を使用しているので、その関係で一部、月曜日以外を休みにしている部もある。また、部員が多い部に関しては、すぐにはノークラブデーを設定できない部もあり、段階的にノークラブデーを作っていくことで合意している。最初から上手くいっているわけではない。 ○大阪府は水曜日を一斉退庁日として推奨しているが、水曜日は月曜日から練習を始めて調子があがる時。自分の学校でもどのように取り入れるか悩んでいたのが、参考になる。月曜日に休むという発想はなかった。 ○自分が高校生の時の部活は月曜日が休みだった。日曜日に試合が入ることが多いので、月曜日に休むのは合理的だと思う。

③について

○リーディングGIGAスクールの指定を受けて導入した電子黒板はどうか。

●黒板に投影できる範囲が広がった。そのため、授業でスライドをめくる回数が減った。

○中学校では以前から三観点での観点別評価が導入されている。それでも主体的な態度を評価するのに苦心しているが、こちらではどうか。

●本校では観点別P Tを立ち上げて、全体化した。昨年度の結果を踏まえて今年の5月に内規を改正したが、走りながらどういうところを改善したらよいか考えていく。

○主体性の評価について提案だが、自分たちの学年は科学部が科学グランプリに出て、いい成績を収めた。私たちはそんなイベントがあることすら知らなかったので、他にもそのようなケースはたくさんあると思う。だから、そういったコンクールなどを周知することで、生徒たちがそういったものに取り組み、それを自己評価させることで主体性の評価に繋がられないか。もし入賞などをすれば大学の推薦にも使えるので、いいと思う。

○主体的な態度というと、生徒に丸投げして、先生が何もしていないように誤解される場合がある。生徒の自主性に任せることは、よく理解できていない生徒には、手抜きに見えてしまう危うさがあると思う。

○すぐに答えを求める生徒が多いのではないか。今は、ネットで調べたら、すぐに答えにたどりつく。そうではなくて、先生方は答えのない問いへの対応を見ているということを、ちゃんと伝えないといけないのでは。

○最近は生き辛さを抱えている子も多い。思春期ということもあり、精神的に不安定になる場合もあると思う。生徒の心身のケアについて、どのように取り組んでおられるか。

●教育相談委員会を週1回実施しており、生徒の情報共有をしている。また、教育庁で配置されるS Cの方とは別に、学校独自の予算でS Cの方をもう一人つけている。ケアが必要な生徒の把握を行い、先生方が一人で抱え込まないように組織的に対応するというところに今年は力を入れている。ただ、学校で把握していることが全てではないということも、同時に戒めとして持っておくべき。